

## 研修等 報告書

令和4年 5月26日

三田市議会議長 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者	
		議員名	美藤 和広
参加者氏名	美藤 和広		
講演会等研修名	全国地方議会サミット2022 in 早稲田		
研修事項	<p>5月12日(木)</p> <p>I-1【基調講演】チーム議会で取り組む「自己決定・自己責任」の地方自治 北川正恭早稲田大学名誉教授/元三重県知事</p> <p>I-2【特別講演】一人一人の多様な幸せを実現するデジタル庁のミッション 牧島かれんデジタル大臣</p> <p>I-3【講演・鼎談】住民自治と多様な議員で構成された活力ある議会 江藤俊昭大正大学社会共生学部教授 ○長野県長野市議会議長/全国市議会議長会副会長 ○沖縄県読谷村議会議長/全国町村議会議長会理事</p> <p>I-4【セッション】オンライン議会の展開事例 千葉茂明月刊「ガバナンス」編集主幹/コーディネーター ○滋賀県大津市議会議会局長、○茨城県取手市議会事務局次長 ○愛知県知立市議会議長、○福岡県春日市議会議長、広報広聴委員長</p> <p>I-5【講演・セッション】多様な議員の一般質問を議会の政策形成へ 土山希美枝法政大学法学部教授 ○北海道別海町議会議長、○北海道鷹栖町議会議員、広報委員長</p> <p>5月13日(金)</p> <p>II-1【講演】コロナ2年の経験をどう活かしていくか!? 廣瀬克哉法政大学総長</p> <p>II-2【講演・セッション】地方議会における男女共同参画の推進と実践 林紀行日本大学法学部教授/コーディネーター ○出産議員ネットワーク発起人・代表 ○宮城県柴田町議会議長、副議長</p> <p>II-3【講演・セッション】速報！議会改革度調査ランキングとトレンド 中村健早稲田大学マニフェスト研究所事務局長</p> <p>II-4【講演・セッション】Z世代にも届く！デジタルを活用した広報・広聴 古井康介株式会社 POTETOMedia 代表、○ZEXT 代表、副代表</p> <p>II-5【講演】いまこそ問われる！地方自治と議会の役割 片山善博大正大学社会共生学部教授/元総務大臣</p> <p>II-6【総括・宣言】 北川正恭(早稲田大学名誉教授/元三重県知事)</p>		
日 時	令和4年5月12日(木曜日)～ 5月13日(金曜日)		
場 所	早稲田大学大隈記念講堂		
所見	別紙参照		

**【5月12日(木)13:00-18:00】 1日目**

\*\*\*\*\*

**【基調講演】13:10-13:30 チーム議会で取り組む～「自己決定・自己責任」の地方自治**

◎北川正恭早稲田大学名誉教授／元三重県知事

地方議会の改革、それは量的削減(議員定数や報酬削減)ではなく、そんなものは改革でも何でも無い。

質的な改革議会在住民にとってどう役に立っているのか。議員は頑張っているけど議会としてはその結果が出せないのが実態である。どうしても執行部が優先される、政策的条例を、議決・実践して欲しいと思っている。この言葉は、私なりの議会改革の根幹である。

しっかりと、市民のための議会として、貢献こそ議会改革と思い、頑張っていきたい。

\*\*\*\*\*

**【特別講演(動画出演)】13:30-13:45 一人一人の多様な幸せを実現する～デジタル庁のミッション**

◎牧島かれんデジタル大臣

まずデジタル庁の概要、

・ミッション:「～誰1人取り残されない、人に優しいデジタル化を。」

・ビジョン:Government as a Service, Government as a startup

・バリュー:この国に暮らす一人ひとりのために、常に目的を問い、あらゆる立場を超えて、成果への挑戦を続けます

今まではそれぞれ別々で、統一も中途半端で終わっていた。

これからは、統一・標準化に取り組む。標準の作成・標準仕様に取り組む。

デジタルのベースとして、マイナンバーカード交付 5500万枚を超えた、とのことであった。

私が ICT を推進するにあたりずっと求めていたことである。国も、やっと標準化を徹底しデータを一元化し、それによってすべての業務を効率化する、とのこと。国が中心でやっていくことが第一であると考えていた。

それぞれの自治体が別々に開発するのではなく、中心となるシステムを、国が各自治体に提供する、そしてそれぞれの自治体が手を加える、そのやり方が1番であろうと考えていた。

今回デジタル庁が発足し、その考え方を実現に向かって動き出した事はとても喜ばしいことであり、三田市においてもその受け入れ体制が必要であると考えている。これからの推進を応援したい。

\*\*\*\*\*

**【講演・鼎談】13:50-15:00 住民自治と多様な議員で構成された活力ある議会**

◎江藤俊昭大正大学社会共生学部教授

寺沢さゆり長野県長野市議会議長／全国市議会議長会副会長

伊波篤沖縄県読谷村議会議長／全国町村議会議長会理事

議会における、男女共同参画であり、多様な議員の集まりとしての課題を説明いただいた。

女性議員の拡大や地域市議会や町議会の報酬などにおける議員の意義や成り手不足など、少し重い課題であるが、これからの議会のあり方として、重要な要素と考える。江藤先生がまとめていただいたが、オンライン会議なども含め、出席の定義・あり方など、法整備を含めこれからの議論が重要だと実感した。

\*\*\*\*\*

【セッション】15:10-16:45 各地からオンライン登壇も！～オンライン議会の展開事例

◎千葉茂明月刊「ガバナンス」編集主幹／コーディネーター

清水克士滋賀県大津市議会事務局長

岩崎弘宜茨城県取手市議会事務局次長

中野智基愛知県知立市議会議長

松尾徳晴福岡県春日市議会議長、米丸貴浩福岡県春日市議会議員／広報広聴委員長

大津市においては新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い議会の開催に危機感を感じた。

そのために議場ではなくオンラインで理解ができるそのための条件整備を進めてきたわけである。

しかしながらオンライン化議会は出席の解釈が難しく、市民に傍聴の機会を保障する 115 条第一項の議会公開の原則が保たれていないことになる。

取手市議会においては模擬のオンライン会議そしてオンライン本会議を開催していた。

今総務省にその法改正を求めている。

三田市議会でも、オンライン委員会をまず実現し、その課題解決を受けて、本会議もオンライン化できるように進めていかなければならないと考える。

\*\*\*\*\*

【講演・セッション】16:55-17:55 多様な議員の一般質問を議会の政策形成へ

◎土山希美枝法政大学法学部教授

西原浩北海道別海町議会議長

青野敏北海道鷹栖町議会議員

片山兵衛北海道鷹栖町議会議員

土山先生が、一般質問から議会の成果をテーマに、北海道などでその実践が報告された。

常任委員会から一般質問や、電車のつり広告風の市民アピール、一般質問の通信簿など、斬新な報告があった。町議会ならではのサイズ感覚や政党色の少ない議会ならではの発想で、とても刺激を受けた。

一般質問の新しい可能性を得た思いである。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

【講演・セッション】13:45-14:45 Z世代にも届く！デジタルを活用した広報・広聴

◎古井康介株式会社 POTETOMedia 代表、小林真子 ZEXT 代表、吉永一輝 ZEXT 副代表

Z世代(1995～2005年くらいに生まれた世代)にも届くデジタルを活用した広報公聴  
今若者が政治に興味を持ちかけている。その際 SNS をうまく活用し若者に政治を届けていくそのための努力が必要であるという指摘である。

高齢者になると文字でデータを送ることになるが、若者はヴィジュアルに目で見える情報として捉えやすい。  
内容は Twitter を使った短い文章、また写真やグラフを使ったわかりやすい広報が必要であるというものでまさにその通りだと思う。

今 Twitter がイーロンマスクが買収と言うことで不安はあるが、このような SNS の活用大きく世界的にも考えていかなければならないと思う。

\*\*\*\*\*

【講演】14:55-15:40 いまこそ問われる！地方自治と議会の役割

◎片山善博大正大学社会共生物学部教授／元総務大臣

地方議会の課題として「神は細部に宿る」その心は、不具合は細かいところに影響してくるということである。

その点を踏まえ、今回3つの指摘をされた。

#### ①国交省の統計改ざん問題

自治体は国の手足であり、受託された事務を確実に行うわけで、各自の判断や確認がどこまでできるか、その議論ができるなら、このような問題は起きていない。議会がチェックする必要はわかるが、そのための資料提示がなければチェックもできないと考える。抜本的なこの国の課題と思う。

#### ②千代田区の街路樹

地方自治の真髄・原理である予算で業者に発注したが、その木を切る切らないで紛糾した。

日本の議会は市民が反論する場がない、まさに裁判所の被告論述がないのに等しいとおっしゃるが、三田市でも同様の課題があり、市民の意見を確認しながら、植栽のあり方の方針を策定中であり、その点は良く市民意見を聞いている。一歩進めて、将来に向け、コストと景観などそれぞれが納得できる結論が必要である。

#### ③教員不足

今全国で教員が不足して、担任がいないクラスが存在している。校長先生や教頭先生が担任を代行するケースまでであると言う。それは教員不足に誰も責任を取らないことに課題が在る。教員の配属を決めるのは、それぞれの教育委員会の課題であり、県の教員であろうと各市議会から問題を指摘することができるはずである、との指摘。

教育委員の決定に当たって、市議会議員はどこまで関与できるのか、しっかりと考えてほしいとのことであったが、三田ではその点は非常に強く要望しこのようなことがないように進めていることを自負する。

\*\*\*\*\*

【総括・宣言】15:40-16:00 ◎北川正恭(早稲田大学名誉教授／元三重県知事)

今回得た知識を実践して、地域からこの国を変えていってほしい、とのことばを、重く受け止め頑張っていきたい。

以上

**【5月13日(金)10:00-16:00】 2日目**

\*\*\*\*\*

**【講演】10:05-10:50 コロナ2年の経験をどう活かしていくか!?**

◎廣瀬克哉法政大学総長

新型コロナウイルス感染症は、2年間以上、対策を講じながらもなかなか収束することができない状態が続いてきた。この2年以上やってできない組織は、今後できる事は無い。

広瀬氏のこの言葉は大きく刺さる言葉であった。

本当に集まれなくなったとしても、議会が機能できるための準備はどうか、実際に集まって議会が開催できる条件や、オンラインで参加できる仕組みが確立しつつあり、一定趣旨は伝えることができるようになったが何をやれば実現するのか。今ここにある危機を生かせとすることで戦略的楽観と戦術的楽観を述べられていた。

超法規ではなく現実的にどのような方法が考えられるのか。今わかっている出席の概念の明確化物理的にそこにいる事の意義は何か訴訟に対応できる憲法56条第1項がテーマとなった。

これからのオンライン議会のあり方を三田市議会でも議論していかなければならないと考える。

\*\*\*\*\*

**【講演・セッション】11:00-12:00 地方議会における男女共同参画の推進と実践※質疑予定**

◎林紀行 日本大学法学部教授／コーディネーター、永野裕子 出産議員ネットワーク発起人・代表、

高橋たい子 宮城県柴田町議会議員 平間奈緒 美宮城県柴田町議会副議長

女性議員の出産子育て家庭との両立のテーマで説明があった。

議員が出産する場合、妊娠による委員会の欠席や出産に伴う時間拘束が考えられる。その間の待遇と議会としての結論の意味を見直す必要がある。一議員の賛否で全体結論が大きく変わることがある。病気など突発的要因では三田でもあったことだが、出産は計画的に欠席が見込まれる。その取扱いこそ問われる課題だと思う。

日本の女性議員の比率が低いことをテーマにしていることがあるが、この妊娠・出産・子育てこのテーマを解決する事は大きな課題であるとする。今回、出産された議員の会を作られ、その中で課題をまとめられている。数量的な展開であり、私なりに、考えをまとめる機会になったと思う。

\*\*\*\*\*

**【講演・セッション】13:00-13:45 速報！議会改革度調査ランキングとトレンド**

◎中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

議会改革の取り組み状況や傾向を把握することを目的に調査を進められている。

取り組みを数値化し、客観的指標を示すことにより、地方議会に善政競争を促し、議会の強化を図る取り組みとのこと。情報共有・住民参画・議会機能強化の3分野で評価されるが、新型コロナウイルス感染症対策の中で、住民の意見反映や合意形成が難しく、そのため意思決定ができない状況の中、今回はネット動画やアンケート、オンライン会議の活用など住民と議会の間でデジタル・オンライン化の動きが活発となったことが特徴に挙げられていた。

オンラインなど先進的な活動をした取手市が総合一位となったが、三田市の議会報告会・意見交換会・みらいトーク・市政相談など、内容的には遜色はなかったと思う。

今後、オンライン強化が迫られるが、まずはオンライン化の必要性、法的な根拠も含め進めていく必要を感じた。